

**市町村指定文化財取材票 《表》**

<b>取材日</b>	2023年	11月	22日	(記入者) 東辻 裕子	
<b>取材参加者</b>	大谷	小倉	河添	神野	鈴木
	仲	東辻			
<b>取材対象先</b>	檀原市：正楽寺の木造阿弥陀如来坐像				

<b>所在地</b>	檀原市五条野町887-1				
<b>所有者(取材 対応者)名</b>	正楽寺(正楽寺 吉水快聞住職) (個人情報守秘)		連絡先 ***		
			PCアドレス ***		
<b>取材申込</b>	申込先・行政名など：檀原市文化財保存活用課、正楽寺				
<b>市町村 指定文化財</b>	彫刻	1 軀	木造阿弥陀如来坐像 1981(昭和56)年3月31日指定		
	建造物	棟			
<b>文化財指定理由</b>	浄土宗寺院通有の阿弥陀如来坐像の中でもその保存はきわめて良好で、かつ全体の均整もよくとれており、時代の特色をよく発揮した作品として貴重な存在である。				

**文化財の状況**

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
<b>防火対策</b>	ろうそくや焼香など火を使うため、火の元には十分注意を払っている。また、檀家寺の役目として文書や檀家の過去帳を守ることが最重要だという考えから、それらを耐火金庫で保管されている。	檀家を大切に思う気持ちをより強く感じた。
<b>獣害対策</b>	被害の有無、対策など 本堂が建物の2階にあり、特に実害はない。対策もない。	所感なし。
<b>保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策</b>	少子高齢化や人口の減少、若い人の宗教離れによる檀家の減少で寺院そのものの存続が危ぶまれる。若い人が仏教に関心を持っていただけのような環境を整えることが継承していくことに最重要と思われる。	

**取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)**

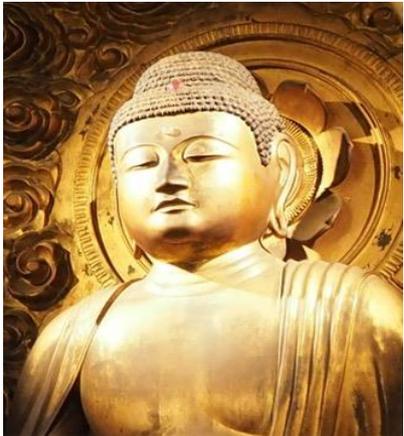
ご住職は文化財修復士や仏師でもあるので、気になる部分のご自身で修復されているとのことである。ご本尊を大切に思う気持ちがとても強い方だと感じた。

市町村指定文化財取材票<<裏>>

取材日	2023年	11月	22日	(記入者) 東辻 裕子	
取材参加者	大谷	小倉	河添	神野	鈴木
	仲	東辻			
取材対象先	檀原市：正楽寺の木造阿弥陀如来坐像				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 木造阿弥陀如来坐像

文化財 (正面写真)	文化財 (角度を変えて、写真)
	
正楽寺本堂	建福寺より移築された十三重の石塔
	
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域(廃寺等)の歴史や特徴を記入
<p>檀原市のホームページによると鎌倉時代の作と表記されているが、ご住職の見解では顔は定朝様式、使われているヒノキ材から12世紀頃の作で、胴部は江戸時代の作と思われる。本尊の裏書に享保四年との墨書があり、使用木材の年代が頭部と胴部で異なるため、元々あった頭部に18世紀初頭に胴部を新たに造り直したであろうと推測する。</p>	<p>正楽寺のある五条野町は丸山古墳や孝元天皇陵などが近く、元は陵を守る村を意味する「護廟」から転訛したと伝わる。正楽寺は植山古墳にあった寺院を昭和40年代に現在の地に移築。その際、近くにあった建福寺を吸収した。敷地内にある十三重の石塔は建福寺にあったものを移築したものである。本堂は鉄筋コンクリート造で1階は地域の集会所、2階が本堂である。</p>